

しんにちは つるおか

No. 112

好きな気持ちを持ち続ける

しばた あい
柴田 亜衣 さん

スイミングアドバイザー。2004年のアテネオリンピック競泳女子800m自由形金メダリスト。2008年の北京オリンピック出場後に現役を引退。現在は水泳教室や講演会などを通じて、水泳やスポーツの振興のため幅広く活動する。鶴岡市合併10周年記念スポーツフェスティバルのスポーツ講演会講師として来鶴。徳島県出身。



水泳を始めたのは3歳のときです。泳ぐことが大好きな母に連れられて、近所のスイミングスクールに姉と一緒に通い始めたことがきっかけでした。オリンピックに出てみたいと思ったのは小学4年生のとき。バルセロナオリンピックで、当時中学2年生だった岩崎恭子さんが金メダルを獲得した姿を見て、自分もいつか大きな舞台で活躍したいと思うようになりました。その後、中学校・高校そして大学と、とにかく水泳一色の毎日でした。

私は、水泳を始めてからアテネオリンピックに出場するまで、日本でも一番になったことがあります。ずっと誰かに負け続けてきた。それでも、自分を駄目だと思ったことは一度もありません。たとえ試合で負けても、自己ベストを0.1秒でも上回ってれば満足でしたし、自分に力が付いていると

感じることができました。ですから、アテネでの目標も自己ベストを更新することでし

た。オリンピックだからといって特別な泳ぎをしたわけではなく、いつもどおり、そのときの自分の持てる力を出し切った結果、金メダルという最高の成績を出すことにつながりました。

現役を引退するまで、私が厳しい練習に耐え、競技を続けられたのは、常に自分のレベルに合った目標を立ててきたからだと思います。初めから高い目標を立てず、少し頑張ったら達成できそうなことを一つずつクリアしていくことで、そのたびに達成感が得られる。楽しかったですし、何よりも水泳を好きな気持ちを持ち続けることができました。やっぱり好きなことに対しては苦しくても頑張ることができるんです。

現在は、私が水泳を通して学んだことや水泳の楽しさを子供たちに伝える活動をしています。私には「水泳嫌いの子供をなくしたい」という夢があります。今後も一人でも多くの子供に水泳を好きになってもらえるよう頑張っていきたいですね。



スポーツ講演会の様子（昨年11月14日／東京第一ホテル鶴岡）

- 急病で子供の世話を十分にできない
- 日曜日や祝日も仕事があり、家庭で子供を見られない
- 仕事のため、保育園に送ることができない、迎えに間に合わない
- 次のような方が利用しています

紹介します。

ファミリー・サポート・センターでは、保育園等の送迎や下校後等の子供の預かりなどの育児支援事業を行っています。支援を頼みたい方（おねがい会員）に、支援してくれる方（まかせて会員）を紹介いたします。

A ファミリー・サポート・センターをご利用ください

就業時刻の遅い日は、子供の保育園の迎えに間に合わないようです。夫の帰りは遅く、ほかに頼れる人もいません。利用できる育児支援はありませんか。

Q 保育園の迎えに間に合わない日があり、困っています

声

voice

市への意見や質問、広報を読んだ感想などをお寄せください。
◎送り先 本所総務課
☎25-2111内線316